

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究報告書（概要）

1 研究主題

「学力を向上させるための指導方法の工夫・改善」 ～主体的な学びを目指して～

2 生徒の実態と課題

平成29年度「全国学力・学習状況調査」より、国語、数学ともに「記述」の問題で正答率が低いことが明らかとなった。国語においては、特に条件を満たして書くことができない。数学においては、機械的な計算は解けるものの、「なぜ」「どのように」式を活用するのか根本的な理解が不十分である。また、生徒質問紙調査より基本的な生活習慣は全国平均よりも高い。規範意識が高く、地域に協力する姿勢もある。一方、「人前で発言することが苦手」「家庭学習の時間が短い」ことが現状である。

3 校内の取組

(1) 朝自習の時間を活用

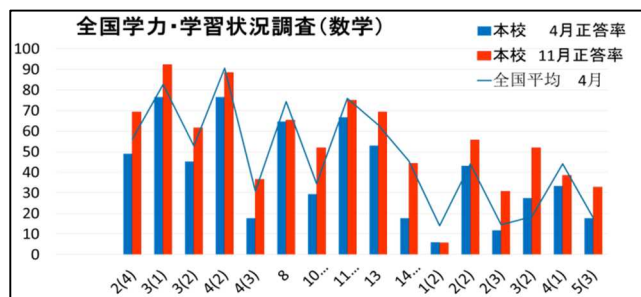
- ・ 読書
- ・ 2週ごとに国、数、英の輪番で小テスト実施
- ・ 作文活動「サク作タイム」（今年度、12月より全校での新たな取組）

(2) 授業

- ・ 家庭学習の手引き配布
- ・ 黒板掲示の工夫・・・「学習課題」「ポイント」「まとめ」等の提示
- ・ 課題解決的な学習
- ・ ペア、グループ学習 ※学び合い、教え合い、伝え合い
- ・ ティーム・ティーチング・・・数学、英語 ※数学科：習熟度別少人数指導、学習サポーターの活用

(3) その他

- ・ 家庭学習：毎日1ページ(個人の選択で5教科の中から学習)
- ・ 専門委員会活動の活性化(生活習慣チェック、学習アンケート、定期テスト予想問題作成など)
- ・ 夏季休業中の学習会実施（全学年／3年は希望制：講座形式で本年度は81講座実施）
- ・ 学習サポーターの活用
- ・ 要請訪問の実施
- ・ 授業相互参観
- ・ ちばのやる気学習ガイドの活用
- ・ 学力ジャンプアップ月間（2月）



4 成果および今後に向けて

※全国平均と比較して、正答率が5%以上低い問題について11月に再調査

授業では、基礎・基本の定着を意識した帯活動、学び合いを意識したペア・グループ活動の実践をしている。特に数学科では、4月より基礎・基本の内容を中心に取り組んできた結果、B問題の記述式の問題に対しても正答率の上昇がみられた。基礎的な知識を身につけてきた結果、問題に対する考え方がつかめるようになり、記述式問題の正答率も高まったと考えられる。

また、表現力の向上を目的に12月より全校での取組として作文活動「サク作タイム」を始めた。文章の構成を意識したり、自分の考えや意見の根拠を示したりすることに慣れさせたい。